

Ⅱ 学習指導案



第2学年1組 国語科 学習指導案

場所 2年1組 教室
指導者 教諭 木村 綾奈

1 単元名 「あそびのやくそくを話し合おう」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年「A 話すこと・聞くこと」の内容(1)「オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと」を受けて設定した。

本単元で取り上げる言語活動は「みんなで仲よく遊べるように、遊びの約束についてグループで話し合っって考えをまとめること」である。友達との関わりが増え、友達とのすれ違いやトラブルが多くなるこの時期に、学級全体が「みんなで仲よく」という一つの願いを持って話し合い活動を行うことは、児童の共感的な聞き方や受容的な人間関係を育む上で効果的であると考え、この単元を設定した。

児童はこれまでに、「『すきなものクイズ』をしよう」(1年)において、一対一で、互いの話をよく聞いて質問したり応答したりすることを学習している。また、「たからものをしようかいしよう」(9月)では、「始め」「中」「終わり」の組立てで伝えたいことを整理して話したり、大事なことを落とさずに話を集中して聞いたりすることも学習している。本単元の学習においては、話し手と聞き手が交互に入れ替わり、尋ねたり応答したりしながら進めていく。この学習を通して身に付く力が、第3学年国語科の司会を決め、グループで話し合っって考えをまとめる学習、生活科や学級活動の時間における話し合い活動の深まりにつながるものと考え、この単元を設定した。

第1学年	第2学年	第3学年
○「すきなものクイズ」をしよう ・よく聞いて話す。	○あそびのやくそくを話し合おう ・グループで話し合っって考えをまとめる。	○グループで話し合おう ・司会を決め、グループで話し合っって考えをまとめる。

(2) 児童の実態 (男子13名 女子14名 計27名)

本学級の児童は、明るく活発な児童が多い。休み時間には、普段の出来事や自分の好きなことなどについて、友達と楽しく話をする姿が見られる。授業においては、意欲的に学習に取り組むことができる児童が多い。国語科の「話すこと・聞くこと」領域の学習に関するアンケート(9月実施)では、「国語科の勉強が好きですか」という問いに対しては、21名の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している。「国語の力で大切なのはどれですか」(複数回答有り)という問いに対しては、「話す力」と答えた児童が19名、「聞く力」が15名であ

り、「話すこと・聞くこと」に対する関心の高さがうかがえる。

「話すこと」に関しては、自分の思いを分かりやすく伝えることが難しい児童や人前で話すことに抵抗を感じている児童が数名いるものの、全体的に話すことを好む傾向が見られる。理由までしっかり発言することができ、自分の思いや考えを相手に伝えるように工夫して話そうという意識が高まっている。

「聞くこと」に関しては、相手の目を見て、話の内容を思い浮かべながら聞く共感的な聞き方を重点的に指導してきた。その結果、友達の話の頷きながら聞いたり、話を聞き終えてから「なるほど」「いいね」とつぶやいたりするなど、話の内容を理解しながら集中して話を聞くことができる児童が多くなってきた。しかしながら、話を最後まで注意深く聞くことが難しい児童が数名いる。相手の話を理解するのが難しいことや自分の考えに固執してしまうことが課題として挙げられる。

このような実態を踏まえ、話し合うことの必要性や有用性を更に感じさせるために、ペア学習やグループ学習を通して、互いの考えのよさに目を向け、一人一人の思いが反映される話し合いができるよう指導していきたい。

(3) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

ア 児童が主体的に話し合いに参加することができるように、話し合いたくなるような話題を設定する。

イ 話題に沿った話し合いを展開させるために、「みんなで仲よく」という共通の願いを持たせ、話し合いの目的を全体で確認するとともに、対話的な学びのモデル図の「選択」と「融合」に重点を置き、話し合いの方向性を明確にさせる。

イ 児童の気付きを促し、対話的な学びが展開されるようにするために、話し合いの手順や児童の考えを可視化し、共通点や相違点を見付けさせる。

ウ 観点を示して振り返りを書かせることによって、学びの成果を実感させる。

【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

ア 丁寧な言葉で話す習慣付けを図り、話したり聞いたりすることの楽しさを味わわせるために、朝の会や帰りの会にテーマを設定したスピーチタイムを設ける。

イ よりよいスピーチをしたいという思いを高めさせるために、朝の会や帰りの会で言うスピーチの原稿を書く活動を家庭学習として取り入れる。

3 目標

(1) 単元の目標

互いの考えをよく聞いて、話題に沿って話し合い、グループの考えをまとめることができる。

(2) 観点別目標

観 点	目 標
関心・意欲・態度	・遊びの約束を話し合うことに興味を持ち、進んで話し合おうとする。

話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・話題に沿って自分の考えを理由とともに話したり、友達の考えを集中して聞いたりして、話し合うことができる。 ・尋ねたり応答したり、似ている考えを一つにしたりするなどしてグループで合意を得ながら考えをまとめることができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、事物の内容を表したり伝えたりする働きがあることに気付くことができる。

4 指導と評価の計画（7時間扱い 本時6／7時間）

次	主な学習活動	時間	評価規準	家庭学習との関連
1	習得 普段、友達とどんな遊びをしているかを想起させ、みんなで仲よく遊べるように、遊びの約束についてグループで話し合っ て決めるという学習課題をつかむ。	1	【関】 友達と仲よく遊べるようにみんなで約束を決めることに関心を持ち、進んで話し合おうとしている。	
	習得 約束を話し合う遊びを考え、議題で取り上げる遊びを決める。 「選択」レベル2	1	【話・聞】 話合いで約束を考える必要があるかどうかを考えて、話し合う遊びを決めている。	
	習得 話合いの流れをつかみ話し合うときの発言の仕方や聞き方について考え遊びの約束を話し合う。 「融合」レベル1	2	【話・聞】 話合いの流れをつかみ、話し合うときの発言の仕方や話の聞き方について理解し、話合いに参加している。	教科書を音読して話合いのイメージを持ってくる。
2	活用 学校生活の課題を出し合い、学校生活の決まりについて話し合う。 「選択」レベル2 「融合」レベル1	1	【話・聞】 学校生活の課題を出し合い、学校生活の決まりについて話し合う。	話し合いたい学校生活の課題を考えてくる。
	活用 「あんば祭り」での遊びの約束について、自分の考えを持ち、グループで話し合っ て考えをまとめる。 「融合」レベル2 「拡大」レベル1	1 本時	【話・聞】 「あんば祭り」での遊びの約束について、自分の考えを持ち、グループで話し合っ て考えをまとめている。	
	活用 単元の学習内容を振り返る。	1	【話・聞】 他の人の考えをよく聞いて話し合うことができたかを振り返り、今後の話合いで生かそうとしている。	グループごとに決めた約束について確認してくる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

「あんば祭り」での遊びの約束について、自分の考えを持ち、グループで話し合っ
て考えをまとめることができる。 【話す能力・聞く能力】

(2) 指導の手立て

- ① 話し合いの目的を共有させるために、共通の願い「みんなで仲よく」を確認し、学習課題を設定する。 【視点1-ア】
- ② 話題に沿った話し合いを展開させるために、対話的な学びのモデル図（「融合」レベル2）に沿って、方向性を明確にして話し合いをさせる。話し合いの手順や言葉の使い方を模造紙にまとめて黒板に提示したり、グループごとにカードを配付したりする。 【視点1-イ】
- ③ 一人一人の考えを広げさせるために、対話的な学びのモデル図（「拡大」レベル1）に沿って、互いの考えを理解させ、共通点や相違点に気付かせる。 【視点1-イ】
- ④ 児童の気付きや対話的な学びを促すために、話し合いで決まった約束を短冊に書かせ、掲示し比較させる。 【視点1-イ】
- ⑤ 学びの成果を実感させるために、観点を与えて振り返りを書かせる。 【視点1-ウ】

(3) 準備物

- ① 教師 昨年度の「あんば祭り」の写真、模造紙、話し合いの手順カード、短冊
- ② 児童 教科書、ノート

(4) 学習過程（別紙1）

(5) 評価

観 点	おおむね満足できる (B)
話す能力・聞く能力	・「あんば祭り」を楽しむための約束を、1年生と一緒に活動することを意識して具体的に考えている。 ・話し合いの手順に沿って4人の考えを比べながら話し合っている。 ・他のグループから出された約束のよいところに気付き、自分たちの考えを改善しようとする。

(6) 板書計画（別紙2）

別紙1 (学習過程)

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎), 指示 (□) 予想される児童の活動 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】(方法) ・準備物等
つかむ・見通す 5分	<p>1 昨年度の「あんば祭り」の思い出を語り合い、自分たちが1年生のお世話をすることを知る。</p> <p>2 本時の学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 1年生といっしょに「あんばまつり」を楽しむためのやくそくを、グループで話し合ってみよう。 </div>	一斉	<p>◎今年度の「あんば祭り」はみなさんに1年生のお世話をしてもらいます。1年生と一緒にお店を回るときに心配なことはありませんか。</p> <p>○行きたい場所が違うとけんかになりそうだな。</p> <p>○人がたくさんいるから、グループの友達と離れてしまうんじゃないかな。</p>	<p>◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の「あんば祭り」の様子を思い出させ、学習課題につなげる。 ・考えが出ない場合には、1年生と一緒に遊んだことや生活科の学習で学校案内をした経験等、これまでの活動について想起させる。 <p>◇話合いの目的を共有させるために、共通の願い「みんなで仲よく」や安全に活動することを確認し、学習課題を設定する。 【手立て①】</p>	<p>・昨年度の「あんば祭り」の写真</p>
解決する 35分	<p>3 1年生と一緒に「あんば祭り」を楽しむための約束を考える。</p> <p>(1) 自分で考える。</p>	個	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◎1年生と一緒に「あんば祭り」を楽しむためには、どのような約束が必要でしょうか。</p> </div> <p>□自分が考えた約束をノートに書きましょう。</p> <p>○1年生の友達が行きたい店に行くといいと思います。1年生の友達に楽しんでもらいたいからです。</p> <p>○1年生と手をつないで歩くと、みんなはぐれないと思います。</p> <p>●おばけやしきは混むから最初に行けばいいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと理由と一緒に書かせる。早く書き終えた児童に対しては、複数記入してもよいことを伝える。 ・児童が自分の考えを分かりやすく話すことができるように、考えを整理する時間を確保し、話型を提示して話させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 私は、～と思います。わけは、～です。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことが難しい児童に対しては、机間指導をしながら個別に「あんば祭り」で心配なことを一つ取り上げ、対応策と一緒に考える。 	<p>【話・聞】</p> <p>「あんば祭り」を楽しむための約束を、1年生と一緒に活動することを意識して具体的に考えているか。 (ノート)</p>

(2) グループで話し合う。

「融合」レベル2

互いの思いを反映させ、意見や考えを一つあるいは幾つかにまとめる。

(3) 全体で共有する。

「拡大」レベル1

友達の見方や考え方を見聞きしてそのよさを指摘する。

班

□ 4人1組で話し合います。話し合いをするときに気を付けることを確認し、話題がそれないように話し合しましょう。

- ① 出し合う…考えと理由を話す。
- ② 比べる…共通点や相違点を見付け、共感したり質問したりする。
- ③ まとめる…適切な考えを選んだり似た考えを一つにしたりする。
- ④ 決めたことを確かめる…決まったことを最後に確かめて話し合いを終える。

□ 決まった約束を短冊に書きましょう。

全体

□ グループで話し合ったことを発表しましょう。

- まわる店を考えてから行くこと。
- みんなが終わってから次の店に行くこと。
- 笑顔でいること。

◎ 約束を比べてみましょう。似ている約束はありますか。

- はぐれないように1年生と2年生がペアになることと手をつなぐことは似ていると思います。
- 優しくすることと思いやりをもつ

◇ 話題に沿った話し合いを展開させるために、対話的な学びのモデル図(「融合」レベル2)に沿って、方向性を明確にして話し合いをさせる。話し合いの手順や言葉の使い方を模造紙にまとめて黒板に提示したり、グループごとにカードを配付したりする。【手立て②】

- ・ 話し合いがスムーズに進むよう、時間の目安を伝え、時間を区切りながらグループで話し合わせる。
- ・ 時間を気にして、無理に考えを選択したり一部の考えにかたよったりしてしまわないよう、声掛けを行う。

◇ グループごとに決めた約束を話型に沿って発表させる。

決めた約束は○つあります。一つ目は～ことです。二つ目は…

◇ 一人一人の考えを広げさせるために、対話的な学びのモデル図(「拡大」レベル1)に沿って、互いの考えを理解させ、共通点や相違点に気付かせる。【手立て③】

◇ 児童の気付きや対話的な学びを促すために、話し合いで決めた約束を短冊に書かせ、掲示し

【話・聞】
話し合いの手順に沿って4人の考えを比べながら話し合っているか。
(対話の様子)

- ・ 模造紙
- ・ 話し合いの手順カード

- ・ 短冊

【話・聞】
他のグループから出された約束のよいところに気付き、自分たちの考えを改善しようとしているか。
(対話の様子)

	(4) 再度グループで話し合う。	班	<p>て行動することは似ています。</p> <p>◎出された約束を見て、いいなと思うものはありますか。</p> <p>○1年生にたくさんのお店を回ってほしいから急いで移動するのは危険だと思います。</p> <p>○～班の考えがよいと思います。</p> <p>◎他のグループの考えを聞いて、変更したいところがありますか。グループで話し合しましょう。</p> <p>□決まった約束をグループごとに確かめましょう。</p>	<p>比較させる。 【手立て④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの約束のよいところを見付けさせることで、更に共感的な聞き方や受容的な人間関係が育まれるようにする。 ・互いの考えのよさを認め合ったり、合意を得ながら考えをまとめたりしたことを称賛する。 ・約束をみんなで守ることが大切だということを確認し、「あんば祭り」への意欲につなげる。
確 か め る	4 本時の振り返りをする。	個	<p>◎今日の学習を振り返りましょう。話し合うときに気を付けたことや友達のよかったところを書きましょう。</p> <p>□書いたことを発表してください。</p>	<p>◇「1年生と一緒に『あんば祭り』を楽しむための約束を考えることができたか」「グループで話し合っただけで約束を決めることができたか」を3段階評価で振り返らせる。学習感想として、話合いで気を付けたことや、友達のよかったところをノートに記入させる。 【手立て⑤】</p>
5 分	5 次時の学習を知る。	一斉	<p>□次回はこれまでの話合いの振り返りをします。今日決めた約束については、「あんば祭り」が終わってから振り返りをします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は単元の学習を振り返ることを知らせる。 ・今日決めた約束については「あんば祭り」後に振り返りをすることを伝える。

別紙2 (板書計画)

十一月一日(木) 日直

あそびのやくそくを話し合おう
あんばまつり

- ・けんかになりそう
- ・友だちとはなれそう

みんなでながよく

①一年生といっしょに
「あんばまつり」を楽
しむためのやくそくを
グループで話し合っ
てきめよう。

〈話し合いの手しゅん〉

- ① 出し合う
- ② くらべる
- ③ まとめる
- ④ きめたことを
たしかめる

〜と意思します。
わけは〜です。

〜が同じです。
〜がちがいます。
〜と〜のことですか。

まとめる〜ですか。
〜ですか。

きめたやくそくは〇つ
あります。二つ目は〜です。

⑤ ①やくそくを考える()
②やくそくをきめる()

話し合いで気をつけたこと
友だちのよかったところ

第4学年1組 国語科 学習指導案

場 所 4年1組 教室
指 導 者 教諭 松岡 恵理

1 単元名 「読書会を開こう『世界一美しいぼくの村』」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領国語科第3学年及び第4学年「C 読むこと」の内容(1)「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」及び「カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」を受けて設定した。

本教材は、アフガニスタンに住む少年「ヤモ」の一日を取り上げ、その日々の生活が戦争により破壊される悲惨さを感じさせる物語である。最後の一文で物語が大きく展開し、読み手に強い印象を残す。感想を交流することに適した教材である。また、付録の「世界一美しい村へ帰る」を読むことで、同じシリーズの物語を併せて読むことの読書の面白さを感じ取ることができる。

児童はこれまでに、大事な言葉に着目して読んだり、物語のあらすじをまとめて友達に紹介したりすることを学習してきた。「はりねずみと金貨」(3年)では、いろいろな国や地域の物語を読み、読んだ本のあらすじをまとめて紹介する活動を行った。

「走れ」(6月)、「ごんぎつね」(10月)では、中心となる人物やほかの人物の気持ちを想像し、感想を伝え合う活動を行った。その際、物語の内容を一文で表す学習活動に4月から継続して取り組ませ、中心人物の様子や心情がクライマックス場面においてどのように変化したのかに着目して読み取りをさせるようにしてきた。また、気仙沼図書館と連携し、並行読書に取り組ませ、自分たちのお気に入りの本を一文にまとめた「紹介カード」を夏休みに館内に掲示していただいた。図書館の方から「掲示した紹介カードを見て貸し出しが増えた」との感想をいただき、自分たちの学びの広がりを実感することができた。

ここでの学習は、第5学年の伝記を読んで人物の生き方について考え、読書感想文に書く「手塚治虫」の学習へとつながっていく。本単元では、同じシリーズの物語を読み、読んだ本を紹介する読書会を行う。中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して物語のつながりを考えたり、心に残った言葉を引用して感想を伝えたりする力の育成を目指している。この学習を通し、登場人物の心情に着目し、場面の移り変わりを捉えながら読む能力を身に付けさせることで、第5学年で学習する登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる活動につなげたい。

第3学年	第4学年	第5学年
○はりねずみと金貨 ・いろいろな国や地域の物語を読み、読んだ本のあらすじをまとめて紹介する。	○世界一美しいぼくの村 ・つながりのある物語を読み、読んだ本を紹介し合う読書会を行う。	○手塚治虫 ・伝記を読んで人物の生き方について考え、読書感想文に書く。

(2) 児童の実態 (男子17名 女子12名 計29名)

本学級の児童は文学的な作品を読む学習を好んでおり、初発の感想を書いたり、自分の考えを友達に伝たりすることに意欲的に取り組んでいる。また、読書が好きで、学級文庫や図書室を進んで利用する児童や、業前の読書タイムを楽しみにしている児童が多い。物語文の家庭学習の際は、「次の時間にみんなで考えてみたいこと」を自主学習ノートに書いたり、登場人物の気持ちが分かるところにサイドラインを引いたりする活動に意欲的に取り組んでいた。

しかし、叙述を基に読もうとする意識は高まってきているものの、本文を正しく読み取ったり、叙述に即した考えを書いたりすることはできない。国語科の学習に関する意識調査(9月実施)では、「授業の内容がよく分かる」という質問に26名の児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答していた。「目当てや目的が分かって取り組んでいる」という質問にも23名の児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答しており、児童が単元全体の学習の見通しを持って学びに取り組もうとしていることが分かった。しかし、「国語の勉強が好き」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童は18名にとどまり、苦手意識を持っていることがうかがえる。今後は個の学びが全体の学びの中で生かされる経験や、対話的な学びを通して自分の考えが深まる経験を積ませ、国語科の学習に対する意欲を高めることも重視していく必要がある。

本学級には、震災に関して精神的影響がある児童が数名おり、防災学習等では配慮して取り組ませている。今回扱う「世界一美しいぼくの村」は戦争でふるさとが破壊された話であることから、戦争で村は破壊されたが、中心人物が希望を持っていることを想像させていきたい。

(3) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

- ア 自分の考えを持ち主体的に学習に取り組ませるために、家庭学習で取り組んだ「みんなで考えたいこと」や「本時の授業の感想」等を課題設定の場面で生かし、児童とともに目当てを立てる。
- イ 一人一人の感じ方の違いに着目して物語を味わわせるために、対話的な学びのモデル図の「比較」と「拡大」に重点を置き、読み取ったことや感じ取ったことを伝え合わせる場面を確保する。
- イ 話合いの場面で、ペアやグループに「全文シート」を配付し、どの表現に着目して考えたのかを書き込ませることによって互いに説明しながら対話をさせる。
- ウ 学びの成果を蓄積させるために、振り返りは「何を学んだか」「自分の考えがどう変わったか」など、視点を与えてから書かせる。

【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

- ア 並行読書では中心人物の心情の移り変わりに着目させるために、読書カードを作成して活用させる。
- イ 物語の大体を捉えながら読む習慣を身に付けさせるために、自分が読んだ作品も一文で紹介する活動を継続して行う。また、学習の成果として気仙沼図書館と連携して読書会を行う。

3 目標

(1) 単元の目標

つながりのある物語を読み、中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して物語のつながりを考えたり、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付いたりすることができる。

(2) 観点別目標

観 点	目 標
関心・意欲・態度	・つながりのある物語を読み、読んだ本の面白さを読書会で伝えようとする。
話すこと・聞くこと	・理由や事例を挙げながら、読んだ本の面白さを筋道立てて話すことができる。 ・友達の紹介を聞き、質問したり感想を述べたりすることができる。
書くこと	・書いた文章を推敲し、よりよい表現に書き直すことができる。
読むこと	・中心となる人物の気持ちや、その後の展開とその理由を叙述を基に想像しながら読むことができる。 ・友達との対話的な学びを通して、物語文を更に深く読み取ることができる。 ・物語の世界をより深く味わうために、つながりのある物語を読むことができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・友達の感想を理解したり、自分の感想を表現したりするために、必要な語彙を増やすことができる。

4 指導と評価の計画（13時間扱い 本時 9 / 13）

次	主 な 学 習 活 動	時間	評 価 規 準	家庭学習との関連
1	習得 学習課題を確かめ、これからの学習の見通しをもつ。	1	【関】 つながりのある物語を読み、読んだ本の面白さを読書会で伝え合おうとしている。	意味調べを行う。
2	習得 登場人物の様子が分かる言葉に注意しながら、初発の感想をまとめ、交流する。	2	【関】 登場人物の様子に着目しながら、感想をまとめることができる。	意味調べを行う。
	習得 家族を思う「ヤモ」の気持ちを読み取る。 「拡大」レベル2	1	【読】 家族を思う「ヤモ」の気持ちを読み取っている。	自学ノートに「みんなで考えたいと思ったこと」を書いてくる。
	習得 ふるさとを思う「ヤモ」の気持ちを読み取る。 「拡大」レベル2	1	【読】 ふるさとを思う「ヤモ」の気持ちを読み取っている。	

	活用	<p>「世界一美しいぼくの村」(第5場面まで)の一文(AがBによってCになった話)を作り、第5場面までの要旨を捉える。</p> <p>『小さな男の子「ヤモ」が、町へ行きサクランボを売ることによって、パグマンが世界一美しい村と感ずる話』</p> <p style="text-align: center;">「拡大」レベル</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">「比較」レベル</p> <p style="text-align: center;">2</p>	1	<p>【読】 友達との対話的な学びを通して、中心人物の気持ちの変化を読み取ることができる。</p> <p>【書】 読み取ってきたことを生かして第5場面までの文を完成させることができる。</p>	<p>「世界一美しい村へ帰る」を読んでくる。</p> <p>自学ノートに「みんなで考えたいと思ったこと」を書いてくる。</p>
3	習得	<p>「世界一美しい村へ帰る」を読んで、詳しく分かったことや、感想が変化したところを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">「拡大」レベル2</p>	2	<p>【読】 物語の中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して読み、二つの物語の関連を読み取ることができる。</p>	<p>「世界一美しい村へ帰る」を読んでくる。</p> <p>自学ノートに「みんなで考えたいと思ったこと」を書いてくる。</p>
4	活用	<p>登場人物のその後を想像し、最後の2行の効果について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">「比較」レベル3</p>	1 本時	<p>【読】 物語の最後の2行に着目し、その効果について考えることができる。</p> <p>【書】 友達との対話的な学びを通して、中心人物の気持ちについて想像したことを書くことができる。</p>	<p>「世界一美しい村へ帰る」を読んでくる。</p> <p>自学ノートに「みんなで考えたいと思ったこと」を書いてくる。</p>
5	習得	<p>つながりのある物語を読み、感想をまとめよう。</p>	2	<p>【読】 中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して読み、物語のつながりについて考えている。</p> <p>【言】 友達の感想を理解したり自分の感想を表現したりするために必要な語彙を増やし、物語</p>	<p>感想をまとめたノートを読む練習をしてくる。</p>

			文を読んだ感想をまとめている。
		「拡大」レベル2	
活用	つながりのある本を紹介する読書会を開く。	2	<p>【読】 物語のつながりや印象に残った言葉などを伝え合い、それぞれの感じ方の違いについて気付いている。</p> <p>【話・聞】 理由や事例を挙げながら、読んだ本の面白さを筋道立てて話している。</p> <p>【話・聞】 友達の紹介を聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。</p>
		「比較」レベル3	

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 物語の最後の2行に着目し、友達との対話を通してその効果について考えることができる。 【読む能力】
- ② 読み取ってきたことを生かして、中心人物の気持ちを想像したことを書くことができる。 【書く能力】

(2) 指導の手立て

- ① 主体的に課題解決に向かわせるために、前時の振り返りや家庭学習で取り組んだ内容を活用し、本時の目当てを立てる。 【視点1ーア】
- ② 最後のページの効果を味わわせるために、互いに読み取ったことや感じたことを伝え合う場面を確保し、対話的な学びのモデル図（「比較」レベル3）に沿って、友達の意見や考えで同じところやよいところについて話し合わせる。 【視点1ーイ】
- ③ 学習感想を書く際の語彙を増やすために、「言葉の宝箱」（様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を集めたワークシート）に身に付けさせたい言葉を蓄積させておく。 【視点1ーウ】

(3) 準備物

- ① 教師 教科書の全文掲示、学習計画表、座席表
- ② 児童 教科書、学習ノート、全文シート、「言葉の宝箱」

(4) 学習過程（別紙1）

(5) 評価

観 点	おおむね満足できる (B)
書く能力	・読み取ってきたことを生かして，自分が想像したヤモの気持ちを書いている。 ・対話を通して新たに気付いたり深まったりしたことを生かして自己の記述内容を見直し，改善しようとしているか。
読む能力	・物語の最後の2行に着目し，友達との対話を通し，その2行があるとないのではどのように違うかについて考えている。

(6) 板書計画 (別紙2)

別紙 1 (学習過程)

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎), 指示 (□) 予想される児童の活動 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】(方法) ・準備物等
つかむ・見通す 5分	1 前時の学習内容を振り返る。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">最後の2行には, どんなこう果があるか考えよう。</div>	一斉 一斉	□前回は「世界一美しい村へ帰る」を読んだ感想を話し合いました。 ○○さん, 振り返りを読んでください。 □目当てをノートに書きましょう。 ○今日は最後のページについて考えるんだね。	◇主体的に課題解決に向かわせるために, 課題設定の場面では, 前時の振り返りや家庭学習で取り組んだ内容を活用する。 【手立て①】 ・第5場面までで, 「ヤモ」が「パグマン」への思いを高めていたことを全体で押さえる。	・全文掲示 ・学習計画表 ・家庭学習で取り組んだノート
解決する 32分	2 教材文を音読する。 【p.81,l.4~p.82,l.2】 3 第6場面のヤモの気持ちを考える。 4 最後のページの効果について話し合う。 (1) 一人で考える。	一斉 一斉 個	□ヤモの家族やふるさとを思う気持ちを想像しながら読みましょう。 ◎第6場面のヤモの気持ちを想像しましょう。 □想像したことをノートに書きましょう。 ○悔しい気持ち。 ○悲しい気持ち。 ○戦争を許せない気持ち。 ○ふるさとへのもっと高まった気持ち。 ○家族をもっと大切にしたい気持ち。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">◎なぜ最後の場面をこの2行で表したのでしょうか。</div> □ノートに書きましょう。 ○悲惨さを伝えたいから。 ○続きが気になるから。	・第6場面を読む前に, 一度切って読むことで, 最後の2行の効果を感じ取らせる。 ・課題解決までの見通しを持たせるために, 目当てを示した後で掲示物を活用して以前見付けた「ヤモ」の気持ちを確認する。 ・児童の発言を受け, キーワードで板書していく。 ・前時で続編を読んでいるため, 「ヤモ」は生き残っていることを前提とした考えも認め, つながりのある物語を読むことの効果を押さえる。 ・本当であれば, 長いお話は続かなければいけなかったのに, あえて2行で物語を終わらせていることを確認した上でその効果を考えさせる。	【書】 読み取ってきたことを生かして, 自分が想像したヤモの気持ちを書いているか。(ノート) 【読】 物語の最後の2行に着目し, 友達との対話を通し, その2行


	<p>○読んでいる人をびっくりさせたいから。 ●戦争が悲惨で書きたくなかった。</p>		<p>があるとないのではどのように違うかについて考えているか。 (観察・発表)</p>
<p>(2) グループで考えを交流する。 「比較」レベル3 友達の意見や考えの共通点についてよいところなどを指摘する。</p>	<p>班 □読み取ったことや感じたことを互いに伝え合い、最後のページの効果についてグループで話し合しましょう。 ○前のページを見てみよう。 ○戦争の悲惨さを伝えたいという考えは私と似ているよ。 ○△△さんが言っていた話の続きが気になるという意見はいいね。 ○□□さんの考えは村への気持ちが高まっていることが伝わってきていいね。 ○戦争で破壊される前は美しい村だったんだよね。</p>	<p>◇最後のページの効果を味わわせるために、互いに読み取ったことや感じたことを伝え合う場面を確保し、友達の意見や考えで同じところやよいところについて話し合わせる。 【手立て②】 ・グループにした際に、書くことができない児童には、友達の考えを参考にさせる。 ・友達との対話的な学びを通して読みが広がったことを認め、称賛する。</p>	
<p>(3) 再度一人で書く。</p>	<p>個 □友達の考えを聞いたことを基にして、もう一度自分で書きましょう。 ○戦争の悲惨さを伝えたいから。 ○話の続きを読んでいる人に想像させたいから。 ○ヤモの家族や村への気持ちを想像させたいから。 ○この2行があると前の場面が、もっと美しく見えるから。</p>	<p>・対話を通して考えが変わった児童を意図的に指名し、その理由を話させ、学びが深まったことを全体で共有する。 ・いろいろな感じ方が出たことを認め、その違いに気付くことができたことを称賛する。</p>	<p>【書】 対話を通して新たに気付いたり深まったりしたことを生かして自己の記述内容を見直し、改善しようとしているか。 (ノート)</p>
<p>(4) 全体で考えを共有する。</p>	<p>一斉 □友達の考えを聞いて変わったところや気付いたことを発表してくだ</p>		

	5 音読をする。 【p.81,1.4~p.82,1.2】	一斉	<p>さい。</p> <p>○最初は戦争の悲惨さしか思い付かなかったけど、○○さんの考えを聞いて、ヤモの気持ちを想像してほしいと付け足しました。</p> <p>○グループで話をして、破壊される前の村の様子を思い出させるための効果があることに気付きました。</p> <p>□みんなで考えたことを胸に刻み、音読をしましょう。</p>	<p>・会話文を教師，地の文を児童が読むことで，余韻が残るようにする。</p>	
確 か め る 8 分	6 本時の振り返りをする。	個	□今日の学習を振り返り，感想を書きましょう。	◇学習感想を書く際の語彙を増やすために，ワークシート「言葉の宝箱」を活用する。 【手立て③】	・言葉の宝箱
	7 次時の学習を知る。	一斉	□次回の学習からは，つながりのある物語を読み，感想をまとめていきます。		

十一月一日(木)

世界一美しいぼくの村

① 最後の二行には、どんな
こころ果があるか、考えよう。



○ 第六場面のヤモの気持ちを
想像しよう。
・ 児童の考え

② なぜ、最後の場面を、この二行で
表したのでしょう。
・ 児童の考え

戦争のひびくを伝えたい

続きを読ませたい

登場人物の気持ちを想像させたい

前の場面をひき立たせたい

ふ

第3学年2組 総合的な学習の時間（海洋教育）学習指導案

場 所 西校舎2階自学室
 指導者 講師 米倉 佑喜

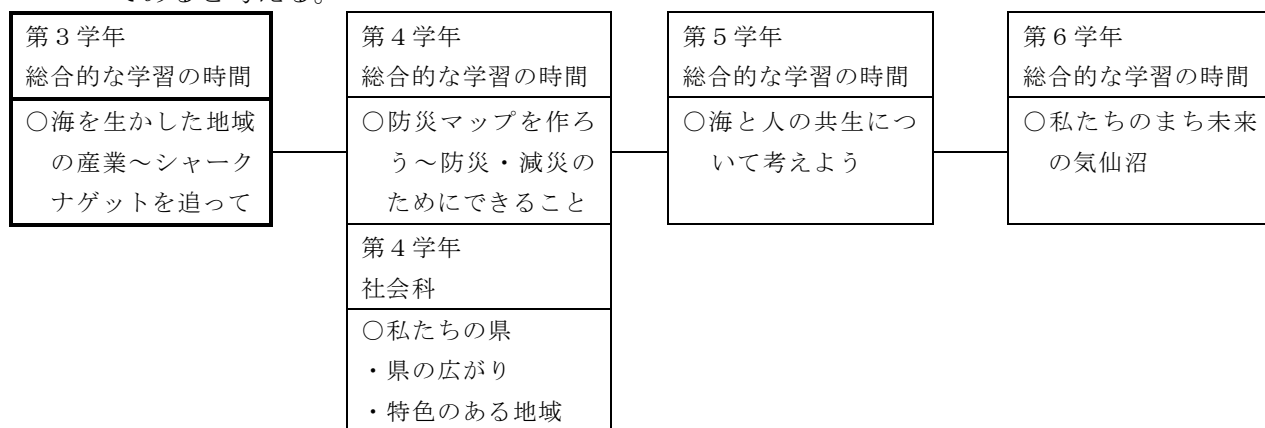
1 単元名 「海を生かした地域の産業～シャークナゲットを追って」

2 単元について

(1) 探究課題について

本単元は、新学習指導要領の趣旨を受けて、新たに定めた本校の総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、産業、防災、福祉など地域の特徴やよさ、課題に関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために以下の資質能力を育成する。（以下省略）」を受けて設定した。また本単元は、本校の海洋教育の全体目標「海の環境や資源、海を取り巻く人や社会とのつながりについて関心を高め、海と共生しようとする考え方や行動力を身に付けた児童を育成する」ための3学年の柱となる単元でもある。

気仙沼市は「サメのまち」とも言われ、古くからフカヒレやサメ肉を利用した練り物製品の製造などサメの加工が盛んであった。これは、気仙沼市で近海マグロやメカジキの延縄漁が盛んであり、それらとともにサメも多く漁獲されたことによると言われている。「水魚」とも言われ水分の多いサメ肉の脱水技術の特許技術も気仙沼の会社が持っており、漁獲したサメの積極的な受け皿港として発展してきた経緯がある。近年も中骨からのコラーゲンやコンドロイチンの抽出、シャークナゲットやフカかつ等のサメ肉の加工品、サメ皮の加工品など新しい商品開発が行われている。その根底にあるのが水産資源を有効に活用しようという生産者の思いである。それらのサメ加工品について課題意識を持って調べたり、生産者の思いに触れたりしながら発信していく活動ができる水産資源のサメは、持続可能な水産業という今日的な課題を考えさせる上でも適切な教材であると考えられる。



(2) 児童の実態（男子10名 女子6名 計16名）

本学級の児童は、積極的に発表をしたり、グループ学習の際に意見を出し合ったりと学習に主体的に取り組むことができる児童と、集中はしているが積極的に意見を言うことができなかったり、発表したりすることを苦手としている児童に分かれる。また、話をよく聞いて、新しい知識を身に付けようとする児童が大変多いが、グループの中で話し合うことを苦手としている児童も少なくない。更に習得した知

識や資料収集・分析の技能を目的に応じて活用していくことに課題がある。本単元の教材の「サメ」については、水産業が盛んなことやサメの水揚げが盛んでフカヒレなどが有名であることを知っている児童は82%と多いが、サメのその他の加工品についてはほとんど知識がない。

本学級では海洋教育に関する意識調査（9月実施）やレディネスを受け、話し合い活動を他教科でも多く取り入れ、話し合いの流れやまとめ方についての資料を掲示することを継続してきた。このことを通して自分の意見を発言したり、友達の考えを参考にしたりして考えを深める児童が増えてきている。また、資料から必要な情報を読み取り、関連させる場を多く設定してきたことで、目的に合った情報を収集して活用できるようになってきている。

(3) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

- ア 持続的な資源の活用について児童が考えを持てるように、サメの加工品開発に携わる人の思いを聞いて考えを深めさせる。
- ア 児童が課題意識を持って学習に取り組めるように、地域発展のために調べた内容を発信していく活動を設定し、発信内容について対話を通じて考えさせる。
- イ 探究のまとめを効果的に行うために、学習シートを活用して情報の累積をし、それを基に児童の気づきや思い、考えを伝え合わせる。
- イ 課題解決に向けた見通しを持たせるために、必要な資料を提示したり、調べる手順や方法を教師とともに構想したりさせる。
- イ 児童の思いや考えを引き出すために、ICTを活用したり、実物を示したりして地域産業や地域の人々の取組をできるだけ可視化して提示する。
- ウ 学びの深まりや考えの変容を実感させるために、ワークシートに学習感想を記述させる。
- ウ 学びの成果を実感させるために、累積した学習シートを基に地域の魅力を伝えるポスターを作成して発表を行ったり、観光施設に掲示したりさせる。

【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

- ア 地域産業に興味・関心を持たせるために関連資料や教具を有効に活用したり、他地域の資料を用いたりして比較できるようにする。
- ア 持続可能な海の利用のよさに気付かせるために、体験活動を位置付けたり、地域人材を活用したりすることで海についての関心を高めさせ、サメ加工品についての知識の習得と意欲的な探究活動ができるようにする。
- イ 児童の実体験や既習事項を基に考えを深められるよう、加工食品について考えたり、調べたりする活動を家庭学習等でも取り組ませる。

3 目標

観 点	目 標
知識及び技能	・海やその資源を活かしたサメの加工品について知り、ポスターでその特徴やよさを発信できる。

思考力・判断力・ 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・フカヒレ以外の肉・皮・歯を使った商品開発がなぜ始まったのかわかることで、持続可能な海の利用について自分なりに考えることができる。 ・目的や意図に応じて情報を取捨選択し、自分たちの考えを他者に伝えるため活用することができる。
学びに向かう力・ 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・シャークナゲットをはじめとするサメの加工品を通して、気仙沼市の海や水産業に興味を持ち、意欲的に調べようとする。

4 指導と評価の計画（34時間扱い 本時 24/34 時間）

次	主な学習活動	時間	評価規準	家庭学習との関連
1	習得 サメ以外の加工品について知り、「加工品の視点から、魅力を伝えていこう」という探究課題を設定する。	1	【学】 サメ以外の加工品を知り、課題意識を持って学習に取り組もうとする。	サメ以外の身近な加工品について調べてくる。
	習得 サメ以外の気仙沼港に水揚げされる魚の種類を知る。	1	【思】 サメ以外の食品のよさを知り、魅力を伝えていくうえでどれを題材にしていくか考えることができる。	サメについての加工品で知っていることを家庭で聞いてくる。
	習得 自己の探究課題を立て、サメについて調べることを考える。 ・シャークナゲットの試食 ・サメ水揚げ日本一 ・フカヒレ生産日本一 「選択」レベル1	1	【思】 多くの探究課題の中から理由を明確にして自己の探究課題を選ぶことができる。 【学】 サメについて調べることを挙げていく中で、調べ学習に意欲的に取り組もうとする。	サメの加工品について、どの部位が使われているのかなどの予想を立ててくる。
2	習得 学習計画を立てる。 ・撮ってくる写真 ・調べる内容 ・質問事項 「選択」レベル1	1	【思】 調べる方法や、必要な情報を集めるための計画を立てることができる。	
	習得 サメについての調べ学習①「魚市場」見学とまとめをする。 「融合」レベル1	2	【学】 サメの生態や輸送等に関心を持ち意欲的に調べようとする。 【思】 見学の中から、単元の目標にあった課題の設定をすることができる。	学習シートにまとめたことについて感想を書いてくる。
	習得 サメについての調べ学習②「足利本店」見	3	【知】 サメの生態についての情報	学習シートにまとめたことについて

	<p>学の計画・見学・まとめをする。</p> <p>「比較」レベル1</p>		<p>を集めることができる。</p> <p>【思】 見学の気付きを比較，分類することができる。</p>	<p>て感想を書いてくる。</p>
習得	<p>サメについての調べ学習③「中華高橋」見学の計画・見学・まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フカヒレ，シャークナゲットの作り方 ・商品開発に込められた願い <p>「比較」レベル1</p>	3	<p>【知】 サメの加工品についての情報を集めることができる。</p> <p>【思】 見学の気付きを比較，分類することができる。</p>	<p>学習シートにまとめたことについて感想を書いてくる。</p>
習得	<p>サメについての調べ学習④「ムラタ」見学の計画・見学・まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・革細工 ・商品開発に込められた願い <p>「比較」レベル1</p>	3	<p>【知】 サメの加工品についての情報を集めることができる。</p> <p>【思】 見学の気付きを比較，分類することができる。</p>	<p>学習シートにまとめたことについて感想を書いてくる。</p>
習得	<p>サメについての調べ学習⑤「シャークミュージアム」見学の計画と見学・まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サメの生態 ・サメについて伝える方法 <p>「比較」レベル1</p>	3	<p>【知】 サメの生態についての情報を集めることができる。</p> <p>【思】 見学の気付きを共有することができる。</p>	<p>学習シートにまとめたことについて感想を書いてくる。</p>
習得	<p>サメについての調べ学習⑥ゲストティーチャーを招き，その他の商品開発について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品，石鹸 ・健康食品 ・商品開発に込められた願い <p>「比較」レベル1</p>	2	<p>【知】 サメの加工品についての情報を集めることができる。</p> <p>【思】 気付きを比較，分類することができる。</p>	<p>学習シートにまとめたことについて感想を書いてくる。</p>
習得	<p>調べ学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャークナゲットの紹介 	3	<p>【知】 調べて分かったことをまとめることができる。</p>	<p>ポスターに取り上げたい加工品を選び，その理由を書いてくる。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・サメの魅力 ・フカヒレの流通 ・気仙沼の海の高さ ・携わっている人々の願い 		【思】 調べたことを共有し、適切に表現することができる。	
3	活用	学習を基に、ポスターの内容を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・発信方法 ・発信相手 ・発信内容 	1 本時	【思】 加工品についての累積した資料（学習シート）から発信する内容を話し合い、決定することができる。	選んだ加工品のよさについて、どう書くかを考える。
	活用	学習を基に、観光客向けのポスターを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの構成 ・掲示方法 ・ポスターセッション 	9	【知】 調べたことや考えを共有し、発信していこうとすることができる。 【思】 発信の目的を明確にして、発信内容やポスターの構成をグループで考えることができる。	書籍や既存のポスター、広告からポスター作りのアイデアを探す。
	習得	気仙沼の海についての考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返り 	1	【知】 持続可能な気仙沼市の海の利用を理解することができる。 【思】 気仙沼市の地域の産業について関心を持ち、持続的な資源の活用への考えを持つことができる。	

5 本時の指導

(1) 本時の目標

加工品についての累積した資料（学習シート）から発信する内容を話し合い決定することができる。
【思考力・判断力・表現力等】

(2) 指導の手立て

- ① 気仙沼市の魅力を発信するために、対話的な学びのモデル図（「選択」レベル2）に沿って、調べてきたことを共有させ、商品開発において共通していることや気付いたことを伝え合ったり、発信内容を話し合ったりさせる。
【視点1ーア】
- ② 発信する内容を決めるために、累積したワークシートを効果的に活用し話し合いを行わせる。
【視点1ーイ】

(3) 準備物

- ① 教師 校外学習の様子（水産加工工場，魚市場，シャークミュージアム等）の写真，サメの加工品，その他の関連資料
- ② 児童 学習ファイル，学習シート

(4) 学習過程（別紙1）

(5) 評価

観 点	おおむね満足できる (B)
思考力・判断力・ 表現力等	・調べてきたことを基に，サメが気仙沼にとってゆかりのある魚である理由を発言している。 ・サメの魅力を誰に伝えたいのかを，理由を挙げながら述べている。 ・累積してきた学習シートを活用して，調べてきたことの中からポスターに掲載したいサメの魅力を選び，グループで話し合っている。

(6) 板書計画（別紙2）

別紙1 (学習過程)

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎), 指示 (□) 予想される児童の活動 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】 (方法) ・準備物等
つかむ・見通す 5分	<p>1 前時までの学習の振り返りをする。</p> <p>2 本時の学習課題を設定する。</p>	一斉	<p>□前時までの学習の振り返りをします。</p> <p>◎どんな方法で情報を集めてきましたか。</p> <p>○魚市場を見学して水揚げされた魚がどこに運ばれるかを調べました。</p> <p>○足利本店で魚の下処理加工について話を聞きました。</p> <p>○皮製品や化粧品, 健康食品について話を聞きました。</p>	<p>・教室にこれまでの学習成果物や見学したときの写真等を提示し, 学んできたことを想起させる際に活用する。</p> <p>・工場見学や話を聞いて調べたことを発信していく流れの確認をする。</p>	<p>・学習シート</p> <p>・校外学習の様子の写真</p>
<p>気仙沼市のサメのよさを伝えるための内容を考えよう。</p>					
解決する 35分	<p>3 サメの使われ方を確認する。</p> <p>4 サメの新商品開発の意図を考える。</p>	一斉 一斉	<p>◎サメのどの部位が加工されていましたか。</p> <p>○フカヒレ, 皮, サメ肉, 骨。</p> <p>○捨てるところがなかった。</p> <p>◎なぜ, 全ての部分を使ってこんなにたくさん商品を考えているのだろう。高級食材フカヒレがあれば十分じゃないかな。</p> <p>○捨てたらもったいないから。</p> <p>○全部使えるから使いたい。</p> <p>○サメをアピールするため。</p>	<p>・フカヒレだけでなく新しい商品を開発して有効に活用することは, 今後も地域の水産資源サメを大事にして, 地域を発展させていこうという思いであることの確認をする。 (持続可能な水産資源の</p>	<p>・教室掲示物</p> <p>・校外学習の様子の写真</p> <p>【思】 調べてきたことを基に, サメが気仙沼市にとってゆかりのある魚である理由を発言しているか。(発言)</p>

5 発信の仕方を考える。

6 ポスターの内容，構成を
考える。

「選択」レベル2

観点に沿って適切な意見
や考えを選び，選んだ根拠
を述べる。

一斉

班

○ 地域を盛り上げたい。

気仙沼市で獲れるサメを，捨てる
ことなく有効に活用していこう
とする思いがある。

- 発信について考えましょう。
- ◎ 誰に向けて発信すればよいだ
ろうか。
- 観光客に向けて発信する。
- 外国の人に向けて発信する。
- 地域の人に向けて発信する。
- ◎ どのような方法で発信すれば
よいだろうか。
- ポスターで発表したい。
- インターネットを使いたい。
- お手紙を書きたい。

□ 内容について対話を通して考
えましょう。

◎ ポスターで発信したいサメ
のよさはどんなものがある
か考えましょう。

- 加工品のよい点。
- 捨てる場所がないこと。
- 商品を開発した人の願い。
- 加工品の魅力・作り方。
- 安全性について。

活用)

- ・ サメの加工や，販売に携
わっている人の考えを振
り返られるよう掲示物の
工夫をする。
- ・ 見学時の様子等を掲示し
振り返らせる。
- ・ なぜその人に伝えるとよ
いのか理由を明確にさせ
る。
- ・ 児童の実態に合った発信
方法で行えるよう声掛け
する。
- ・ インターネットは本学年
では難しいのでポスター
で発信する。
- ・ ポスターを学校ホームペ
ージに掲載することはで
きることを伝える。

◇ 気仙沼の魅力を発信する
ために，対話的な学びの
モデル図（「選択」レベ
ル2）に沿って，調べた
ことを共有させ，商品開
発において共通している
ことや気付いたことを伝
え合ったり，発信内容を
話し合ったりさせる。

【手立て①】

◇ 発信する内容を決めるた
めに，累積したワークシ
ートを効果的に活用し話

・ ポスター

【思】

サメの魅力を
誰に伝えたいの
かを理由を挙げ
ながら述べてい
るか。

（発言）

【思】

累積してきた
学習シートを活
用して調べてき
たことの中から
ポスターに掲載
したいサメの魅
力を選びグルー
プで話し合っ
ているか。

（話し合い）

	7 ポスターの掲示場所を考える。	一斉	<input type="checkbox"/> 発信したいよさに合う商品を選び，まとめましょう。 <input checked="" type="checkbox"/> どこに置いたり，貼ったりすれば地域の産業の発展につながるだろうか。	合いを行わせる。 【手立て②】 <ul style="list-style-type: none"> ・観光客など発信相手がいることを意識して内容を考えさせる。 ・地域の産業の発展のために必要なことを明確にさせる。 ・話合いの要点を明確にする。発信の目的を明確にして伝えたいことを考えさせる。 ・多くの加工品の中から選択した理由と児童の思いや考えを話し合わせる。 	
確 か め る	8 本時の振り返りをする。	一斉	<input checked="" type="checkbox"/> 本時の振り返りをノートに書きましょう。 <input type="checkbox"/> たくさんの人に気仙沼のサメについて知ってもらいたい。 <input type="checkbox"/> 工夫のあるパンフレットを作りたい。		
	5 分	9 次時の学習を知る。	一斉	<input checked="" type="checkbox"/> キャッチコピーを考えたり，載せる資料を考えたりして魅力あるポスターを作っていきます。	

ㄥ

㊦ 気仙沼のサメのよさを伝えるためのないようを考えよう。

なぜフカヒレ以外を？

- とったくない
- 全て使いたい
- サメのアピール

有こうに使おう

思い 考え

㊦ 伝え方

- だれに向けて... かんこうきゃく 地いきの人
- どんな方法で... HP, ポスター

㊦ ないよう, サメ加工品のよさ

- 安全安心
- 全て使おうという思い
- おいしさ
- 商品のよさ